

「親子で楽しむくじゅう登山」事業報告書

企画指導専門職 山下 正晃

1 事業の概要

- (1) 趣 旨 登山を通して、自然の雄大さを実感するとともに、困難な課題に粘り強く取り組む姿勢の育成と自然に親しもうとする態度の育成を目指す。また、親子で活動することにより、親子が絆を深める機会とするとともに、他の家族との共同体験を通して交流する楽しさを味わう機会とする。
- (2) 期 日 平成30年5月26日(土)～27日(日) 【1泊2日】
- (3) 活動場所 国立阿蘇青少年交流の家、くじゅう連山「星生山」
- (4) 参加者 9ファミリー(小学生11名 保護者10名 計21名)
- (5) 担当職員 山下 正晃(企画指導専門職) 花田 誠(企画指導専門職)
尾家 義隆(企画指導専門職) 萱野 太一(事業推進係員)
野尻 明美(事業支援室専門職員) 佐藤 ゆり子(事業支援室事務補佐員)
法人ボランティア2名
- (6) 講 師 薄井良文氏(研修指導員) 前田崇徳氏(研修指導員)
村上 修氏 沢木淳子氏
- (7) 内 容 1日目:登山に役立つワークショップ(登山インフォメーション、登山での歩き方指導)
2日目:星生山登山

2 成果と課題

(1) 成 果

- 参加した子供たちの感想には、「普段の生活ではできない体験ができました。頂上で食べたおにぎりがとてもおいしかったです。」「頂上がきれいな景色でした。とてもきつかったけれど達成感があって楽しかったです。」などが見られ、今回の事業を通して体験活動の楽しさを覚えた参加者が多くいた。また、「次も登ってみたい。」や「もっと高い山に登って体力をつけたい。」など、今回の登山をきっかけに、他の山に挑戦したいという目標をもつ参加者も見られた。
- 保護者の感想には、「自分たち親子だけではなかなか登山などできないと思うのでとてもいい体験になりました。」「家族3代で登山ができたことがとてもいい思い出になりました。」などがあった。登山の指導者がいることで安心して参加できた事業であったことや家族のきずなを深めることができる良い機会となったことが伺える感想が見られた。また、「登山直前まで不安が大きかったが、パーティのメンバーや指導員、職員の皆さんに励ましの声をかけていただいて、何とか下山まで頑張ることができました。最後まで歩きぬくことができてよかったです。」という、親子や登山パーティで協力しながら困難を克服した時の感動が大きかったことが伺える感想もあった。
- 事業後、「今回の事業を通して登山に対する興味をもちました。今、様々な山への登山を家族で挑戦しています。」という参加者の声を聞くことができた。今回の事業が登山などの自然体験活動への関心を高めるきっかけとなっていた
- 1日目のワークショップにおいて、登山時の歩き方やルート上にあるはしごやロープの使い方等について疑似体験を行うことで、当日は参加者が安心して登山を行うことができた。

(2) 課 題

- 事業の当日に運動会を開催する小学校が多数みられた。より多くの地域から参加者を募るためにも、開催時期の検討が必要だった。
- 今回の登山のルートの途中には、トイレがなく不便を感じた参加者もいたようだった。事前にトイレを済ませることをしっかり伝えるとともに、できるならば、登山ルート途中にトイレが確保できるルート選定も考えたい。
- 参加者の中にはボランティアスタッフとのかかわりが希薄だったと感じた方がおられた。今後様々な事業において、ボランティアとしての役割を明確にすると同時に、参加者とのかかわり方についても事前にレクチャーし、ボランティアの資質向上を図る必要がある。

3 事業の様子



登山インフォメーション



ロープを使って降りる練習の様子



ルートの難所を上る参加者



山頂を目指す参加者の様子



登頂した参加者の様子



閉会式の振り返りの様子